

現在の森林の姿（人工林資源の充実、間伐の必要な森林の増加（イメージ））

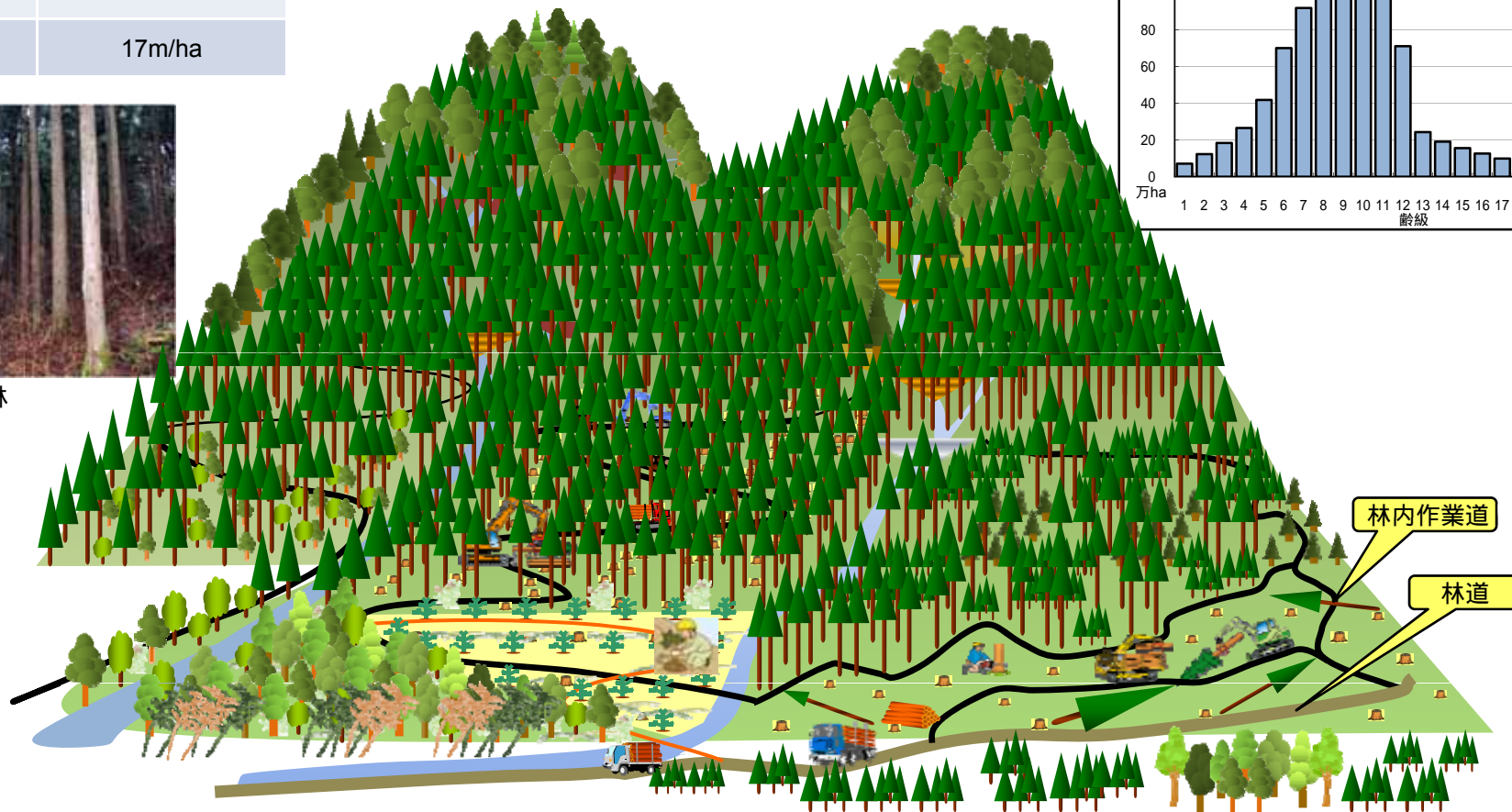
我が国は国土の7割が森林であり、そのうちの約4割が人工林。樹種構成はスギ43%、ヒノキ25%、カラマツ10%。人工林を中心に毎年8千万m³ずつ蓄積が増加し、総蓄積は約47億m³と充実。一方で、林業経営の採算性の低下等から森林所有者の林業離れが進み、必要な施業が行われず多面的機能の低下が危惧される状況。

海外との路網密度の比較

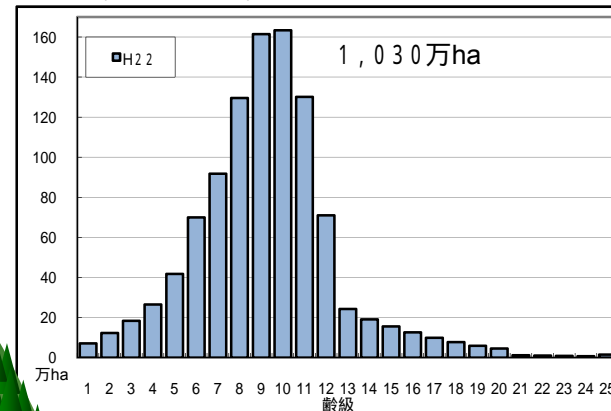
	路網密度
ドイツ	118m/ha
オーストリア	89m/ha
日本	17m/ha



間伐の遅れた人工林



人工林(育成単層林)の年齢構成



(森林蓄積:平成22年 47億m³)

100年後の森林の姿（イメージ）

一定の広がりにおいてその土地固有の自然条件・立地条件に適した様々な生育段階や樹種から構成される森林がバランス良く配置され、持続的な森林経営に必要な基盤が確立。

木材等生産機能の発揮が期待される660万haの育成単層林においては、長伐期・高蓄積の森林が育成され、毎年4,000万m³以上の木材生産を期待。

公益的機能の発揮が強く期待される680万haの育成複層林、1,170万haの天然生林においては、様々なタイプの森林が適正に保全され、各々の森林に期待される機能が十分に発揮。

人工林(育成単層林)の年齢別面積

